



薬剤部
清水 菜穂子

83. 新しいタイプの抗がん剤の副作用 (皮膚障害) とスキンケアについて

最近の癌の治療では、「分子標的薬」と呼ばれる、主にがん細胞の表面にあるタンパク質や遺伝子の特徴を認識し、がん細胞の増殖や転移をおこなう特定の分子だけを攻撃するお薬を用いることがあります。正常な細胞への攻撃やダメージは少なくなりますが、副作用が全くないというわけではありません。特にEGFRと呼ばれる受容体に結びつくお薬(セツキシマブ、パニツムマブ等)では皮膚障害が起きることが知られています。

✿どんな皮膚障害が起き、何が困るの？

①投与開始1～4週間頃

挫創様皮膚炎(ニキビのような発疹、ふきでもの)→顔面などに出来た場合人目が気になる場合もあります。

②投与開始3～5週間頃

全身掻痒感(ひどいかゆみ)、皮膚乾燥、ひび割れ→痛みやかゆみで眠れなくなったり、集中力が無くなったりする。

③投与開始6～8週間頃

爪囲炎(爪の周りの炎症)→手の爪の場合は、細かい作業がしにくくなったり、足の爪の場合は、靴が履けなくなったり歩きづらくなったりします。

✿予防のためのスキンケアについて

皮膚障害を無くすことはできませんが、スキンケアを実践することで、症状を軽くすることが出来ます。以下、スキンケアのポイントについてです。

①清潔を保つこと→弱酸性や刺激の少ない石鹸、シャンプーを使用しましょう。

②保湿すること→アルコールなどを含まない低刺激のもので顔も体も十分に保湿しましょう。

③皮膚に刺激を与えないこと→肌を締め付けない服や靴で。

髭剃りは出来れば電気シェーバーを使用し、剃刀を使う場合は低刺激のシェービングクリーム等を使用しましょう。

外出時は刺激の少ない紫外線防止剤を使用しましょう。

✿使用される薬剤について

①保湿剤(ヘパリン類似物質油性クリーム・スプレー等)

刺激の少ないものであれば市販の保湿クリームや普段から使用しているものでも可。全身どこでも使用できます。

②ステロイド外用剤・抗菌外用剤

発疹・ひび割れなど悪化した部位に使用します。指定された部位にのみ用法を守って使用してください。

③内服薬(ミノサイクリンなどの抗菌剤・抗アレルギー剤など)

これらのお薬はいつも受診されている先生から処方してもらえます。また皮膚科を受診してから処方してもらう事も可能です。

皮膚障害が酷くなり治療が続けられなくならないように、まずは正しいスキンケアで予防し、症状が出たら早めの正しい対処が大事です！

もし気になる症状があれば、早めに医療スタッフご相談ください。